

義母と趣味のバド ミントンサークル で出会った人妻ト モダチ二人が息子 たちと

義母は数年前に離婚して会社で働いて
いる。

スウェットの俺との二人暮らしである。

リビングなどで一緒に義母はとっても
お尻が小さくていつも真っ白下着。

まつ毛が黒くとっても目つきがセクシー。そしていつも膝をモジモジさせている。

薄い赤のブラジャーがお似合いでいつもエッチばかりしている。

• • • • • • • • • • ◦

いつもセックスしている・・・それは
男のセフレを意味するが・・・裸のシ
ャワールームという意味でもある。

もちろん俺もいつも裸で無毛シャワー
ルームだが、この場合はお尻の小さな義
母のセフレ・・・・その一人が俺だった
というだけの話。

パイパン義母には一緒に街へ遊びに行
く人妻トモダチが数人いて、同様に俺に
も知り合いの友人がいる。

そして互いに社会人ということもあり
性欲がないと生きていけない。

常に朝は・・・・・・・・。

床に・・・・・・・・。

・・・・頬は火照っている。

そんな俺たちに義母はとても朗らかなのである。

「いつかハダカで私とか・・・・・・・・人妻トモダチの裸のオトナたちと・・・・・・・・」

義母は素っ裸で腕組をした。

「・・・・・・・・だよね！！」

趣味で最近バドミントンサークルに街
の西の方まで通い始めた義母は、

ここ最近とってもスポーティで健康的になった。

太ももは以前よりいっそうムッチムチになりお尻は大きくなり、そこで出会った同年代の人妻トモダチ、そして以前からの知人でそこそこ仲が良かった同じく人妻の一人を加えて、

今、三人でとっても仲睦まじく愛の間柄

となっている。

先日はレストランへ一緒に行ったようだ。玄関、帰ってきた義母はすっかり満足のようにそのまま中へ……………。

レストランの後にお酒を飲みながら夜の街散策を楽しんだらしい。道中、歩道

ではホットパンツで太ももを丸出しにして・・・・・・・・。

お酒などでたまには崩したりして・・・・・・・・。

だけどいつも夜になればハダカの行為が待っているのである。

ホテルには一階に大判焼き屋がある。

……ここは昔ビジネスホテルだった。

自宅から車での15分程度の場所ではあるがいつも義母たちは歩いて向かっていた。

ミニスカートの人妻たち。近くにある混浴銭湯に立ち寄り、入浴を終えたその後は夏場の夜なので薄着でホテル、

そして朝までおっぱいを舐め合う。

銭湯終わりにビンの牛乳を飲んでホテルの軒をくぐるのが通例となっていた。

「今晚も朝までね・・・」

人妻たちは心の中であっちりと手を繋いでいる。

もはや分かり切った仲だから。お尻はと
っても浮ついているのだ。大きな……。

(体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました)